

講演テーマ

「厳しさだけでは伝わらない時代に：体罰ハラスメントとは無縁の剣道指導」

テーマ設定の背景：

昨年度は、「スポハラとは何か？目指せ、グッドコーチング」をテーマに、講演をさせていただきました。その背景として、不適切指導に関わる相談窓口への通報は過去最多となっており、スポハラの根絶が課題となっていることを紹介しました。体罰やハラスメントで処分を受けている指導者の多くは、選手のために良かれと思って、あるいは強くなってほしいと思うあまり、気がつけば不適切指導として通報されたり、処分されたりしている現状を報告しました。2023年のNO！スポハラ活動以降、不適切指導に関する基準が大きく変わったことから、多くの参加者が「学び続けることの大切さ」を痛感したとの感想を頂きました。そこで本年度は、厳しさだけでは伝わらないこの時代に、武道ならではの強みを踏まえながら、更に一步踏み込んで、体罰ハラスメントとは無縁の剣道指導について考えてみたいと思います。当日は、プレーヤーの主体性を育むコツや、スポハラ予防のためのチェックリストづくりを、グループワークなども取り入れながら実施する予定です。学びほぐし（unlearn）や実践的な学び（learning by doing）を通じて、受講者同士が学び合う時間を取りたいと思いますので、日頃の指導実践の振り返りを兼ねてご参加いただければ幸いです。

講師のプロフィール

土屋裕睦（つちやひろのぶ）。大阪体育大学教授。博士(体育科学)。
公認心理師、スポーツメンタルトレーニング上級指導士。

略歴

1964年5月岐阜県生まれ。筑波大学大学院修了後、復旦大学へ留学。帰国後、筑波大学文部技官、助手を経て現職。プロスポーツチーム（野球・サッカー・ラグビー・卓球）や日本代表チームにてメンタルトレーニング指導を約30年にわたり担当。パリ2024オリンピック大会には選手の安全・安心を守るウェルフェアオフィサーとして日本選手団に帯同。選手の心理相談の他、コーチデベロッパー（コーチのコーチ）として公認指導者育成事業にも尽力。専門はスポーツ心理学、スポーツカウンセリング。なお、小学生のころ、第4回選手権者の浅川春夫範士に手ほどきを受けたことがきっかけで竹刀を振るようになり、筑波大学時代は佐藤成明範士、香田郡秀範士にご指導を頂き、大阪体育大学着任後は作道正夫範士、神崎浩範士の愛情溢れるご指導の様子を間近で見させていただいております。私は剣道の専門家ではありませんが、こういった経験から、武道家の中にはグッドコーチがたくさんいらっしゃるという印象を持っています。

社会活動：

日本スポーツ心理学会理事長を経て10月より会長。文部科学省「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」委員、日本オリンピック委員会アントラージュ部会員・科学サポート部門員、日本スポーツ協会「NO!スポハラ」実行委員。地域では教育委員や部活動のあり方に関する有識者会議委員等を歴任。大阪体育大学なぎなた部部长、剣道部コーチ（教士七段）。著書に「アスリートのためのこころの強化書」（草思社）、他多数。

